

【報告】

学生による看護学部導入教育の評価

石井 敏弘 鈴木恵理子 鈴木 知代 中野 照代 渡邊 順子

聖隷クリストファー大学 看護学部

Student Evaluation on Introductory Discourses in the Department of Nursing

Toshihiro ISHII, Eiko SUZUKI, Tomoyo SUZUKI, Teruyo NAKANO, Yoriko WATANABE

Department of Nursing, Seirei Christopher College

抄 録

導入教育の一部として看護学部1年次生に対して2005年度に実施された、基礎セミナーⅠの全体授業（講演）について受講学生より得た評価を報告する。全体授業は4回行われ、看護や介護に限定せずに広範な分野から考える素材が提供された。難易度が適当か、‘元気’や‘意欲’（など前向きなパワー）を与えるか、「大学在学中に学修する、あるいは将来に医療（看護）・保健の専門職として活躍する」という観点から有意義であるかという事項について全回を共通して評価したところ、何れの回についても良好な回答の割合が多かったので、基礎セミナーⅠの全体授業に係る目標は高い水準で達成されたと評価できた。また、各回に特異な事項についても良好な評価であった。全回に共通する事項、各回に特異な事項の両者とも、看護師の仕事や障害に挫けない生き方に関わる内容のものがとくに好評であった。

キーワード：看護学部、導入教育、授業評価

I. 緒言

1951(昭和26)年9月に公表された「大学に於ける一般教育—一般教育研究会報告」と題する文書において、一般教育を大学の機能の中核に置くべきことが、新制大学の最重要使命とされた。以後、わが国の大学において一般教育を充実すべきことは、中央教育審議会、臨時教育審議会、さらには大学審議会からも軌を一にして発せられてきた¹⁾。また、大学入学者の学力や意欲、大学生活に対する適応力の不足が目立ってきており、一年次教育の重要性および新たな対応が強調されるようになった²⁾。

こうした状況を受けて本学看護学部においては、教養基礎領域および専門基礎領域の教員が担当して第1セメスター(1年次・春)に実施される基礎セミナーIという科目が2004年度より設けられた。基礎セミナーIは、看護学部生に相応しい生活および学修の態度・技能(student skill)を習得することをめざしており、看護学部(全体)の教育課程が円滑かつ効果的に行われるための下地づくりの科目である。

また、看護学部導入教育については、これに関わる科目を担当する教員のみでなく、(看護専門領域の教員を含めて)学部全体で検討することが、2004年12月の教授会において決議された。そして本稿の著者5名が中心となって、2005年度以降の看護学部導入教育について検討することとなった。

実施様式の点で基礎セミナーIは、18~19名の学生から成る班を担当教員が個別に受け持つて行われるもの(内容は担当教員に一任されている)と、学年全体で受ける講演(全体授業)という2種によって構成されている。2004年度に実施された基礎セミナーIでは1回(90分×2コマ)の全体授業が生まれ、「班による授業内容

の格差を解消してほしい」という改善要望が受講学生から発せられた。このため、2005年度には全体授業を4回(90分×5コマ)を増やすことを私たちは提案し、これが実施された。

このように授業時間数が大きく増加して行われた、2005年度基礎セミナーIの全体授業に関する受講学生による評価を、本稿で報告する。

II. 方法

2005年度基礎セミナーIの全体授業が4回行われることが決定された時点で、各回に共通する目標として、つぎの2つが設けられた。

- ・‘元気’や‘意欲’(など前向きのパワー)を学生に与える
- ・「大学在学中に学修する、あるいは将来に医療(看護)・保健の専門職として活躍する」という観点から、学生にとって有意義である

この2つを踏まえて、さらに看護や介護に限定せずに広範な分野から考える素材を提供するという観点から全体授業の内容が検討された。そして具体的には表1のような日時、演者、演題、内容で各回の授業(講演)が実施された。

評価に用いた問、回答選択肢を表2に示した。全回に共通する3つの問、各回に特異な2つの問という計5つの問を各回とも評価票に設けた。回答は、各問とも5つの選択肢から1つを選ぶ様式とした。

評価票は、各回授業の翌週月曜日より学生に配布し、回答の提出(評価票の回収)期限はその週の金曜日とした。評価票の配布および回収は教務事務センターに設置した専用箱を用いて行った。このように評価票の回収に科目担当教員(単位認定者)が直接関わらず、また評価票は無記名としたので、評価票の回答が科目の成

績に影響を及ぼさないことが回答者に認識されている状況で実施された。

問ごとに授業各回の回答を集計し、回答者数および百分率を算出した。

Ⅲ. 結果

回答が記され回収された評価票は、第1回121名(82.3%)、第2回76名(51.7%)、第3回79名(53.7%)、第4回70名(47.6%)であった(科

目の履修登録者数は147名)。

全回に共通する3つの問に対する回答の集計結果を図1a～図1cに示した。各図とも回別に分けて集計し、各回答選択肢の員数と百分率を表(左側)と帯グラフ(右側)で示した。さらに各問に設けた5つの選択肢に「-10点」「-5点」「0点」「5点」「10点」を付与し平均点を算出した。ただし各回答選択肢は順序尺度であるので、ここでの平均値は回答の重心位置を意味するわけではなく、群の特徴を知る参考指標の1つと

表1 2005年度基礎セミナーⅠ(全体授業)の概要

第1回	日時： 4月15日(金)14時55分～16時25分(90分) 演者： 小松洋氏(元 わかば保育園園長) 演題： 野の花のように 内容： 演者は、2004年アテネパラリンピック競泳男子200メートルメドレーリレーで銀メダルを獲得した鈴木孝幸氏(講演時は他大学1年生)の里親であり、鈴木氏は演者が勤務する保育園に通園していた。鈴木氏が公私において困難を如何に乗り越えてきたかが話され、これから直面する困難に挫けずに立ち向かえる強い意思を聴衆の学生が持つことを期待した。
第2回(「看護の日」記念事業との共同開催)	日時： 5月12日(木)15時00分～18時00分(180分) 演者： 原口義座氏(国立病院機構災害医療センター臨床研究部病態蘇生研究室長、外科医長) 演題： 災害に対しての医療・看護を考えるー最近の多発する災害への実際の対応経験を中心にー 内容： 地震(阪神淡路大震災、新潟県中越地震、宮城県直下型地震、スマトラ沖地震、トルコ地震)、洪水・風水害(新潟県、福井県、高知県)、原子力災害(美浜発電所事故、東海村発電所臨界事故)、大型交通災害(尼崎市の列車事故、名古屋空港の旅客機墜落事故)、テロリズム(合衆国同時多発テロリズム)など実際に起こった災害現場の状況を基に、災害の特徴、求められる医療・看護が講演された。
第3回	日時： 5月20日(金)14時55分～16時25分(90分) 演者： 桧森隆一氏(ヤマハ株式会社静岡企画推進室地域文化貢献担当主査) 演題： 価値あるものを生み出す方法ーお客様と感動を共にするマーケティングの実践ー 内容： 演者は、民間企業でマーケティングや商品企画に携わってきた(最近では、浜名湖花博、愛知万博などの音楽・音響関連をプロデュース)。看護師、保健師が‘仕事人’として提供するものもサービス・ソフト(商品)であり、マーケティングの考え方が必要であること、またどんなマーケティングが求められるのかについて、聴衆にとって身近な事例を用いて話された。
第4回	日時： 6月3日(金)14時55分～16時25分(90分) 演者： 大手歌子氏(前 聖隷佐倉市民病院総看護部長) 演題： 命を引き出すもの 内容： 進路選択、看護師として行った仕事、患者の家族といった自分の経験、および国内外における優れた看護の実例から学んだことを通じて、プロフェッショナルが行う看護の価値について論じられた。後悔のないように生きる、誇りがもてる看護師になることができるようになるための助言が示された。

表2 評価に用いた問、回答選択肢

[全回に共通する問]

- A. 講演の難易度は、あなたにとって如何でしたか。
ア. 難しい イ. やや難しい ウ. ちょうどよい エ. やや易しい オ. 易しい
- B. 講演は‘元気’や‘意欲’（など前向きのパワー）をあなたに与えましたか。
ア. 与えなかった イ. あまり与えなかった ウ. どちらともいえない
エ. やや与えた オ. 与えた
- C. 「大学在学中に学修する、あるいは将来に医療（看護）・保健の専門職として活躍する」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。
ア. 有意義でなかった イ. あまり有意義でなかった ウ. どちらともいえない
エ. やや有意義であった オ. 有意義であった

[各回に特異的な問]

第1回：

1a. 「自分が困難な問題に直面したときに前向きに取り組む」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

- ア. 有意義でなかった イ. あまり有意義でなかった ウ. どちらともいえない
エ. やや有意義であった オ. 有意義であった

(回答選択肢は、以下の1b～4bにおいても同じ)

1b. 「困難な問題に直面している人を支援する」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

第2回：

2a. 「災害に対する医療・看護について理解や考えを深める」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

2b. 「医療・看護に対して興味・関心が増す」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

第3回：

3a. 「(アマチュアと比較して)プロフェッショナルについて理解や考えを深める」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

3b. 「価値あるものを生み出す方法について理解や考えを深める」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

第4回：

4a. 「めざすべき‘看護’あるいは‘看護師’について理解や考えを深める」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

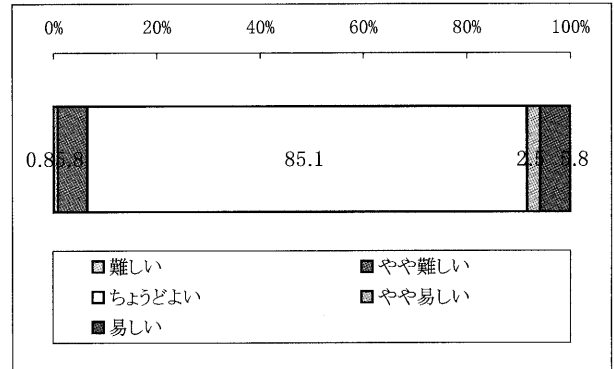
4b. 「‘看護’あるいは‘看護師’を職業とすることに誇りをもつ」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

問： 講演の難易度は、あなたにとって如何でしたか。

第1回

回 答	度数	割合(%)
難しい (- 10点)	1	0.8
やや難しい (- 5点)	7	5.8
ちょうどよい (0点)	103	85.1
やや易しい (+ 5点)	3	2.5
易しい (+ 10点)	7	5.8
計	121	100.0

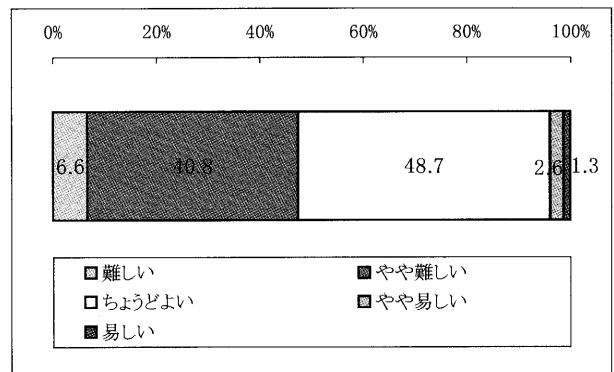
平均点 0.33



第2回

回 答	度数	割合(%)
難しい (- 10点)	5	6.6
やや難しい (- 5点)	31	40.8
ちょうどよい (0点)	37	48.7
やや易しい (+ 5点)	2	2.6
易しい (+ 10点)	1	1.3
計	76	100.0

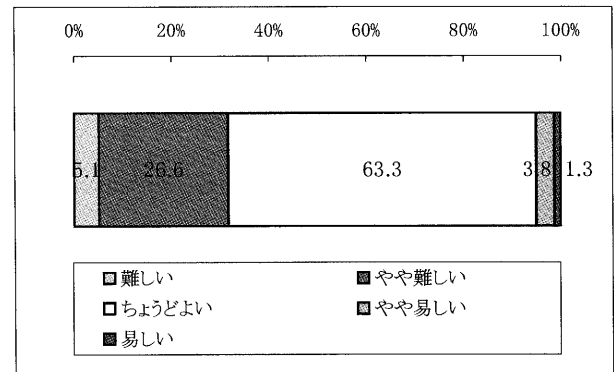
平均点 -2.4



第3回

回 答	度数	割合(%)
難しい (- 10点)	4	5.1
やや難しい (- 5点)	21	26.6
ちょうどよい (0点)	50	63.3
やや易しい (+ 5点)	3	3.8
易しい (+ 10点)	1	1.3
計	79	100.0

平均点 -1.5



第4回

回 答	度数	割合(%)
難しい (- 10点)	1	1.4
やや難しい (- 5点)	4	5.7
ちょうどよい (0点)	61	87.1
やや易しい (+ 5点)	2	2.9
易しい (+ 10点)	2	2.9
計	70	100.0

平均点 0.00

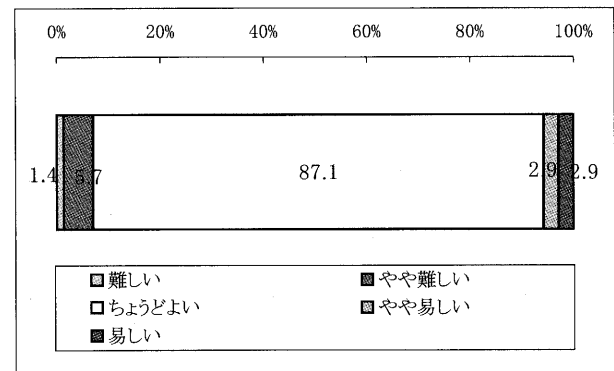


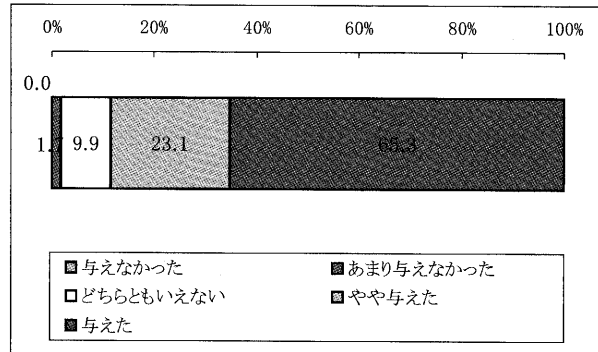
図1a 全回に共通する事項の評価(1)

問： 講演は‘元気’や‘意欲’（など前向きなパワー）をあなたに与えましたか。

第1回

回 答	度数	割合 (%)
与えなかった (- 10点)	0	0.0
あまり与えなかった (- 5点)	2	1.7
どちらともいえない (0点)	12	9.9
やや与えた (+ 5点)	28	23.1
与えた (+ 10点)	79	65.3
計	121	100.0

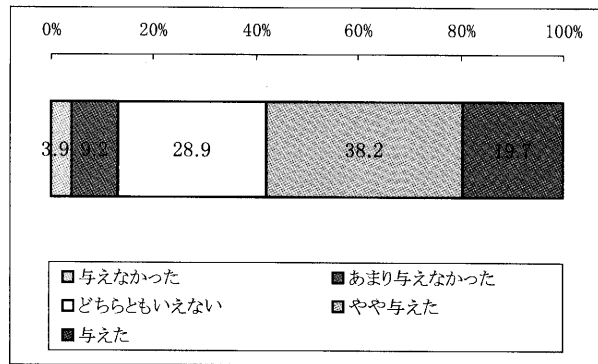
平均点 0.33



第2回

回 答	度数	割合 (%)
与えなかった (- 10点)	3	3.9
あまり与えなかった (- 5点)	7	9.2
どちらともいえない (0点)	22	28.9
やや与えた (+ 5点)	29	38.2
与えた (+ 10点)	15	19.7
計	76	100.0

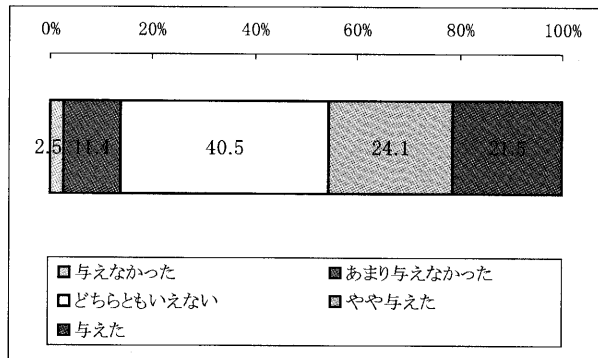
平均点 0.33



第3回

回 答	度数	割合 (%)
与えなかった (- 10点)	2	2.5
あまり与えなかった (- 5点)	9	11.4
どちらともいえない (0点)	32	40.5
やや与えた (+ 5点)	19	24.1
与えた (+ 10点)	17	21.5
計	79	100.0

平均点 2.5



第4回

回 答	度数	割合 (%)
与えなかった (- 10点)	0	0.0
あまり与えなかった (- 5点)	1	1.4
どちらともいえない (0点)	8	11.4
やや与えた (+ 5点)	26	37.1
与えた (+ 10点)	35	50.0
計	70	100.0

平均点 6.8

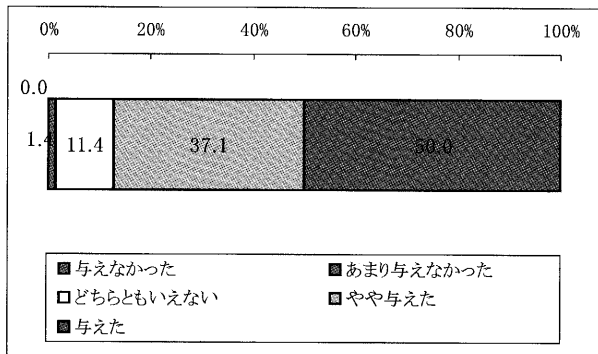


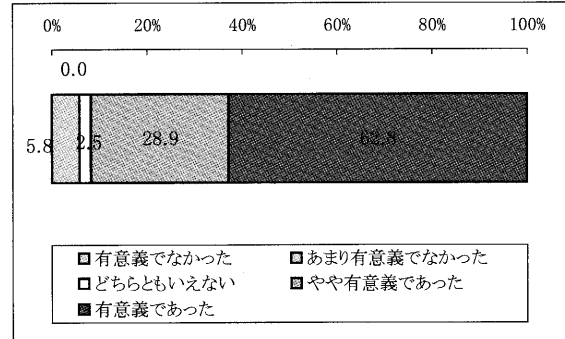
図1b 全回に共通する事項の評価(2)

問：「大学在学中に学修する、あるいは将来に医療(看護)・保健の専門職として活躍する」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

第1回

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった (- 10点)	7	5.8
あまり有意義でなかった(- 5点)	0	0.0
どちらともいえない (0点)	3	2.5
やや有意義であった (+ 5点)	35	28.9
有意義であった (+ 10点)	76	62.8
計	121	100.0

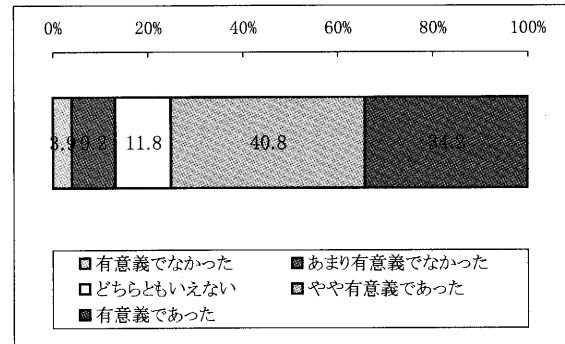
平均点 7.1



第2回

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった (- 10点)	3	3.9
あまり有意義でなかった(- 5点)	7	9.2
どちらともいえない (0点)	9	11.8
やや有意義であった (+ 5点)	31	40.8
有意義であった (+ 10点)	26	34.2
計	76	100.0

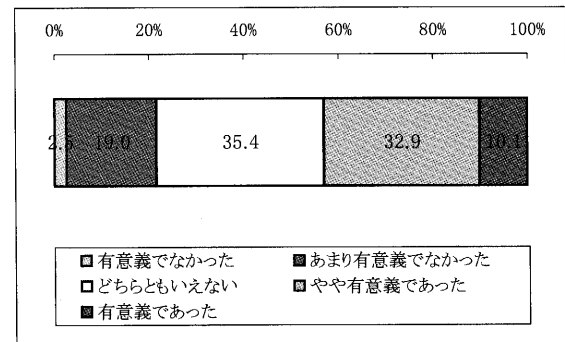
平均点 4.6



第3回

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった (- 10点)	2	2.5
あまり有意義でなかった(- 5点)	15	19.0
どちらともいえない (0点)	28	35.4
やや有意義であった (+ 5点)	26	32.9
有意義であった (+ 10点)	8	10.1
計	79	100.0

平均点 1.5



第4回

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった (- 10点)	2	2.9
あまり有意義でなかった(- 5点)	1	1.4
どちらともいえない (0点)	9	12.9
やや有意義であった (+ 5点)	18	25.7
有意義であった (+ 10点)	40	57.1
計	70	100.0

平均点 6.6

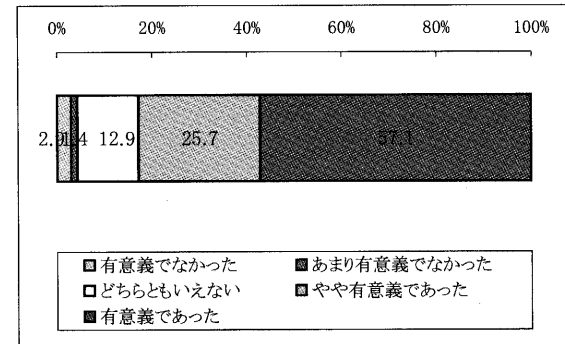


図1c 全回に共通する事項の評価(3)

して算出した。

図1aは「講演の難易度は、あなたにとって如何でしたか」という問に対する回答の集計である。何れの回においても「ちょうどよい」が最多であった。その割合は多い順に、第4回87.1%、第1回85.1%、第3回63.3%、第2回48.7%であった。次いで多い「やや難しい」の割合は、第2回40.8%、第3回26.6%、第1回5.8%、第4回5.7%であった。

図1bは「講演は‘元気’や‘意欲’(などの前向きなパワー)をあなたに与えましたか」という問に対する回答の集計である。最も多いのは、第1回と第4回で「与えた」(65.3%、50.0%)、第2回で「やや与えた」(38.2%)、第3回で「どちらともいえない」(40.5%)であった。「与えた」と「やや与えた」を合わせた割合は、第1回88.4%(107名)、第4回87.1%(61名)、第2回57.9%(44名)、第3回45.6%(36名)であった。

図1cは「“大学在学中に学修する、あるいは将来に医療(看護)・保健の専門家として活躍する”という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか」という問に対する回答の集計である。最も多いのは、第1回と第4回で「有意義であった」(62.8%、57.1%)、第2回で「やや有意義であった」(40.8%)、第3回で「どちらともいえない」(35.4%)であった。「有意義であった」と「やや有意義であった」を合わせた割合は、第1回91.7%(111名)、第4回82.9%(58名)、第2回75.0%(57名)、第3回43.0%(34名)であった。

各回に特異な2つの問に対する回答の集計結果を図2a～図2bに示した。各図とも回別に分けて集計し、各回答選択肢の員数と百分率を表(上側)と帯グラフ(下側)で示したのは、全回に共通する問の場合と同様である。各回答選択

肢に点数を付与して平均点を算出する方法も、さきのそれと同様である。

「有意義であった」の割合が多い順に、集計結果の概要を記す。

「有意義であった」の割合が最も多いのは、第1回の2つの問であった。「‘自分が困難な問題に直面したときに前向きに取り組む’」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか」という問に対して「有意義であった」が61.2%(74名)であり、これと「やや有意義であった」を合わせると88.4%(107名)を占めた。「‘困難な問題に直面している人を支援する’」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか」という問に対しては「有意義であった」が61.2%(74名)であり、これと「やや有意義であった」を合わせると87.6%(106名)を占めた。

「有意義であった」の割合が次いで多いのは、第4回の2つの問であった。「“めざすべき‘看護’あるいは‘看護師’について理解や考えを深める”」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか」という問に対して「有意義であった」が51.4%(36名)であり、これと「やや有意義であった」を合わせると81.4%(57名)を占めた。「“‘看護’あるいは‘看護師’を職業とすることに誇りをもつ”」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか」という問に対しては「有意義であった」が48.6%(34名)であり、これと「やや有意義であった」を合わせると84.3%(59名)を占めた。

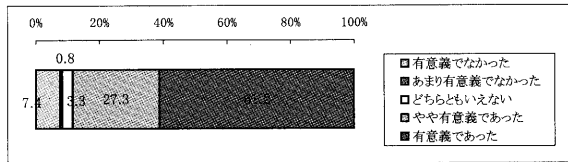
第2回の2つの問については、つぎのとおりであった。「‘災害に対する医療・看護について理解や考えを深める’」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか」という問に対して「有意義であった」が34.2%(26名)であり、これと「やや有意義であった」を合わせると69.7%(53名)を占めた。「‘医療・看護に対

第1回

1 a. 「自分が困難な問題に直面したときに前向きに取り組む」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった	9	7.4
あまり有意義でなかった	1	0.8
どちらともいえない	4	3.3
やや有意義であった	33	27.3
有意義であった	74	61.2
計	121	100.0

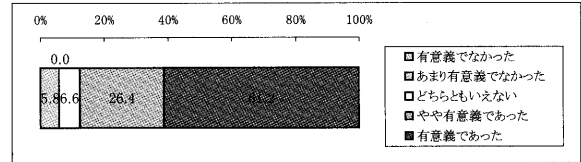
平均点 6.7



1 b. 「困難な問題に直面している人を支援する」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった	7	5.8
あまり有意義でなかった	0	0.0
どちらともいえない	8	6.6
やや有意義であった	32	26.4
有意義であった	74	61.2
計	121	100.0

平均点 6.9

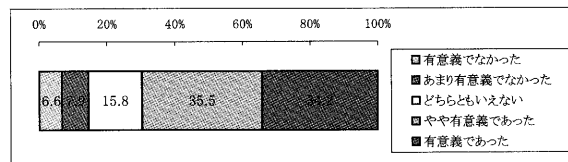


第2回

2 a. 「災害に対する医療・看護について理解や考えを深める」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった	5	6.6
あまり有意義でなかった	6	7.9
どちらともいえない	12	15.8
やや有意義であった	27	35.5
有意義であった	26	34.2
計	76	100.0

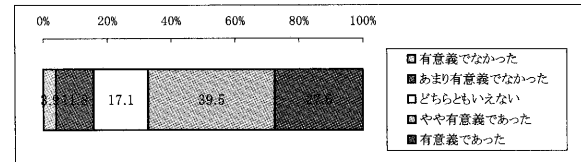
平均点 4.1



2 b. 「医療・看護に対して興味・関心が増す」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった	3	3.9
あまり有意義でなかった	9	11.8
どちらともいえない	13	17.1
やや有意義であった	30	39.5
有意義であった	21	27.6
計	76	100.0

平均点 3.8



平均点は「有意義でなかった-10点」「あまり有意義でなかった-5点」「どちらともいえない0点」「やや有意義であった+5点」「有意義であった10点」として算出した。

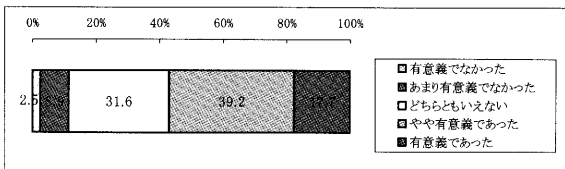
図2a 各回に特異的な事項の評価(1)

第3回

3 a. 「(アマチュアと比較して)プロフェッショナルについて理解や考えを深める」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった	2	2.5
あまり有意義でなかった	7	8.9
どちらともいえない	25	31.6
やや有意義であった	31	39.2
有意義であった	14	17.7
計	79	100.0

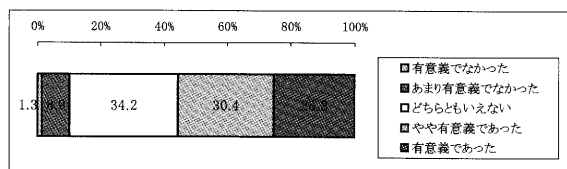
平均点 3.0



3 b. 「価値あるものを生み出す方法について理解や考えを深める」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった	1	1.3
あまり有意義でなかった	7	8.9
どちらともいえない	27	34.2
やや有意義であった	24	30.4
有意義であった	20	25.3
計	79	100.0

平均点 3.5

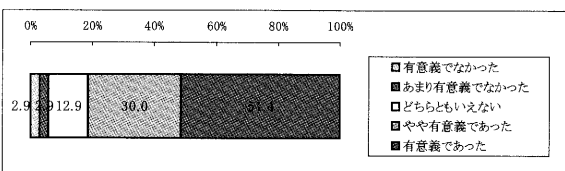


第4回

4 a. 「めざすべき‘看護’あるいは‘看護師’について理解や考えを深める」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか。

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった	2	2.9
あまり有意義でなかった	2	2.9
どちらともいえない	9	12.9
やや有意義であった	21	30.0
有意義であった	36	51.4
計	70	100.0

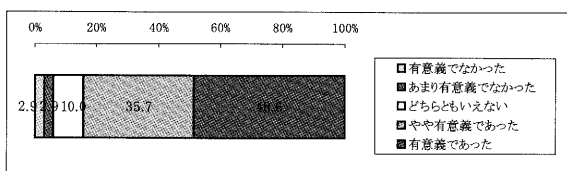
平均点 6.2



4 b. 「‘看護’あるいは‘看護師’を職業とすることに誇りをもつ」という観点から、講演は、あなたにとって有意義でしたか。

回 答	度数	割合(%)
有意義でなかった	2	2.9
あまり有意義でなかった	2	2.9
どちらともいえない	7	10.0
やや有意義であった	25	35.7
有意義であった	34	48.6
計	70	100.0

平均点 6.2



平均点は「有意義でなかった -10点」「あまり有意義でなかった -5点」「どちらともいえない 0点」「やや有意義であった +5点」「有意義であった 10点」として算出した。

図2b 各回に特異的な事項の評価(2)

して興味・関心が増す」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか」という問に対しては「有意義であった」が27.6% (21名)であり、これと「やや有意義であった」を合わせると67.1% (51名)を占めた。

第3回の2つの問については、つぎのとおりであった。「‘価値あるものを生み出す方法について理解や考えを深める’」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか」という問に対して「有意義であった」が25.3% (20名)であり、これと「やや有意義であった」を合わせると55.7% (44名)を占めた。「(アマチュアと比較して)プロフェッショナルについて理解や考えを深める」という観点から、講演はあなたにとって有意義でしたか」という問に対しては「有意義であった」が17.7% (14名)であり、これと「やや有意義であった」を合わせると57.0% (45名)を占めた。

IV. 考 察

まず、全回に共通する問に対する回答の集計結果について考察する。

‘難易度’については、第4回と第1回で「ちょうどよい」が85%超と多かった。第4回は看護師の仕事、第1回は障害に挫けない生き方に関する内容であり、かつ受講者の経験あるいは見聞と関連づけし易い内容であったためと考える。この2つの回と比較すると第2回と第3回では「ちょうどよい」の割合が減少し、「やや難しい」の割合が増加した。第2回は災害時という非日常的状況であること、また看護に限定されず医療全般に及ぶことなどから、「やや難しい」の割合が比較的多かったと考える。第3回は比較的身近な話題が多かったものの、楽器の開発、催事のプロデュースという看護とは異なる分野で

あるため、「ちょうどよい」が約6割に止まったと考察する。また第3回では、演者が終了時刻を30分遅く思い違いしており、正規の終了時刻間際にこれに気付いたため、予定していた結論や纏めを話す時間が不十分であった。これも「ちょうどよい」が約6割に止まった一因だろう。

“‘元気’や‘意欲’ (などの前向きなパワー) を与えたか”については、「与えた」と「やや与えた」を合わせた割合が第1回と第4回でやはり85%超であった。看護や福祉(障害者支援)に関わる内容であり、‘難易度’が適当であったことが好評をもたらしたと考える。災害医療(看護を含む)に関わる内容である第2回でも「与えた」と「やや与えた」を合わせた割合が57.9%と比較的多かった。‘元気’や‘意欲’ (などの前向きなパワー) を得ることは(看護に限定されない)一般的事項であるが、看護と関わりが深い内容の方が好評であると解することができる。

“‘大学在学中に学修する、あるいは将来に医療(看護)・保健の専門職として活躍する’”という観点から有意義であるか”については、「有意義であった」と「やや有意義であった」を合わせた割合が第1回91.7%、第4回82.9%、第2回75.0%であるのに対して、第3回では43.0%であった。内容が看護に直接関係しているか否かが格差の要因となったと考える。

前述の全回に共通する問に対する回答が良好な授業(講演)は、各回に特異な問においても「有意義であった」の割合や、これと「やや有意義であった」を合わせた割合が多かった。したがって各回に特異な問に対する回答の集計結果は、“難易度” “‘元気’や‘意欲’ (などの前向きなパワー) を与えたか” “‘大学在学中に学修

する、あるいは将来に医療（看護）・保健の専門職として活躍する’ という観点から有意義であるか” という3点が良好であることと関連していると考ええる。

V. 結 語

‘難易度’については「ちょうどよい」、「‘元気’や‘意欲’（などの前向きなパワー）を与えたか”については「与えた」および「やや与えた」、「‘大学在学中に学修する、あるいは将来に医療（看護）・保健の専門職として活躍する’ という観点から有意義であるか”については「有意義であった」および「やや有意義であった」、また各回に特異な問についても「有意義であった」および「やや有意義であった」の割合が多かったことから、基礎セミナーⅠの全体授業に

係る目標は高い水準で達成されたと評価できる。また授業（講演）の分野としては、看護に関わるものが好評を得やすいだろうと解することができる。

評価票に回答して下さった2005年度看護学部1年次生の方々に深謝致します。

文 献

- 1) 飯島宗一 (2001): 今、なぜ教養教育といわれるようになったか, IDE - 現代の高等教育, 426, 12-17.
- 2) 館昭 (2001): 一年次教育の重要性とフレッシュマン・セミナー, IDE - 現代の高等教育, 429, 5-13.